

平成 27 年度大阪府立視覚支援学校 第 3 回学校協議会 記録

1 日 時 平成 28 年 2 月 25 日 (木) 10:00~11:30

2 場 所 大阪府立視覚支援学校 校長室

3 次 第

- (1) 校長挨拶
- (2) 協議
- (3) 次年度について
- (4) 准校長謝辞

4 協議事項

- (1) 平成27年度 大阪府立視覚支援学校 学校教育自己診断について
- (2) 平成27年度 大阪府立視覚支援学校 学校評価について
- (3) 平成28年度 大阪府立視覚支援学校 学校経営計画について

5 協議内容

- (委員) 学校教育自己診断で自由記述がいくつかあるが、特徴的なコメントについて紹介してほしい。
- (事務局) ICT について、生徒の評価が上がっている。昨年度の学校協議会で全盲生徒への ICT 機器の利用についてご意見を頂いたが、それを踏まえる形で実施してきており、その成果もあるだろう。視覚に障がいのある先生方も本校での ICT 教育について肯定的評価が多く出ている。
- (委員) 教職員の回収率が 100%になっていないことについての理由を教えてください。
- (事務局) 質問の内容が教育活動に限定されている。全教職員がアンケートの対象となっており、いわゆる行政職員が答えにくいためであると考えます。
- (委員) 新校舎の視覚障がい者に配慮された設計についての質問に否定的評価が大きくなっている点について
- (事務局) エントランスホールの柱が多かったり、床と柱の色が似ているなど、図面ではわかりにくかったが実際に出来てみると気になるという点が多く出ていることもある。歩行訓練士の教員を中心に新校舎誘導等検討チームを立ち上げ、ヒヤリハットの情報をまとめて対応するとともに、教職員に共通理解を図っているところである。
- (委員) 自由記述で書かれている写真の取り扱いについて、もう少し説明をしてほしい。
- (事務局) 個人情報の取り扱いについて府教委からの指導がある。行事などで職員が写真をとっても保護者へ提供する部分で制約が大きい。外部へ現像に行くのもデータの取り扱いに難しい部分もあるので、PTA で印刷機を購入していただいたが、画質等の課題で使用頻度が上がっていない。さまざまな研修の中で、写真などが個人情報の漏洩や犯罪などにつながっている部分もあると聞く。保護者にも渡った写真を SNS などでアップしないようお願いしている。
- (委員) 専修部の進路先が狭くなってきている現状がある。職域の拡大について今後どのような分野が考えられるか。
- (事務局) あはきが医療分野へ入っていくことが考えられる。また、5つ目の医療系の開拓も検討していく必要がある。高等部からの進路について大学への進学もあるが、いわゆる福祉的就労の部分が難しい。もう少し収入のある仕事(雇用)があればと思う。視覚障がいがあるために

除外されてしまう現状がある中で、「このようなことができますよ」というようなアピールをしていく必要である。

(委員) 大学への進学についてもアピールしてほしい。準ずる教育を行っていることが理解されていない現状がある。入試においても配慮が十分行えていない点などもある。盲学校全体としても広報していく必要があると思う。

(委員) 府立の視覚支援学校2校になり、専門性の向上に繋がれると思うが、どのような方策があるだろうか。高校になるとさまざまな点字（英語・記号など）の利用があるし、触覚を利用した学習方法についての理解も必要。ロービジョンにおける教育についても同様である。人事は委員会に任せる部分もあるが、管理職が連携するなどして、やる気のある教員の実力を伸ばせるような方策を考えられないだろうか。

(事務局) 校長会などの場面を通じて、いろいろな方策を検討していきたい。

6 次年度について

第1回

- ・テーマ 平成28年度 学校概況、平成27年度 学校評価報告について協議
- ・開催日 6月を予定